建設未来通信 2026年11月10日（火）掲載

㈱伊東建設

ものづくりって楽しい！

鉾一高演劇部と大道具製作



伊東取締役専務

㈱伊東建設（伊東久夫代表取締役社長）は10月20日、県立鉾田第一高等学校（飯山美都子校長）の演劇部員に対して大道具製作の講習会を行った。同社社員が工具の取り扱い方法を丁寧に指導すると部員はみるみる上達。ものづくりの楽しさを体感した。

遠隔操作。遠隔操作システムで千葉市美浜区に設置された実際の建機がリアルタイムで稼働する最新技術を体感した。

天候にも恵まれ、飲食コーナーや建機との記念撮影など小さな子どもたちにも大好評だった。



▲工具の使い方を丁寧に指導した



▲完成したドアとともに記念撮影

同校演劇部は、現在1年生2人、2年生11人の計13人で活動している。文化祭や演劇コンクールへの参加のほか、校内での自主公演を企画するなど精力的に活動をしているが、活動のネックになっているのが大道具の製作だという。

同校演劇部顧問の関口周美教諭は「大道具をつくるための工具の使用や製作過程を正しく指導できる人材がいないのが現状。これまでは大がかりな大道具をつくらずに対応してきたが、演劇は総合芸術。部員の成長のためにも大道具づくりに挑戦したいという思いはあった」と語る。

そのような状況の中、市内で建設業を営む伊東建設に白羽の矢が立った。同社は建設業の魅力を若者に発信する「いとうけんせつアカデミー」を立ち上げ、土木サッカー教室や出前授業などを行ってきた実績がある。同社取締役専務兼アカデミーダイレクターである伊東優考氏は同校の依頼を快諾。「大人の本気」による大道具づくりがスタートした。

演劇部からリクエストされたのはドアの製作だった。関口教諭は「学校を舞台にした演劇を上演する際にドアがほしいと思っていたが、開閉するドアをつくるのは素人には難しい」と語る。

同社社員は、演劇部からの要求をクリアするだけでなく「軽さ」や「運びやすさ」など使いやすさにも配慮してドアの枠組みをつくりあげた。最後の仕上げを同社社員と演劇部員で行うため、同日に校内で講習会を開催する運びとなった。

作業はインパクトドライバーを使用して行われたが、ほとんどの部員は使用経験がなかったため、まずは使い方をレクチャー。部員たちは最初は緊張したようすだが、コツをつかむとものづくりの面白さに目覚めたようで、目を輝かせて作業に集中。無事に金具の取り付けまで完了し、立派なドアが完成した。

同校2年生の吉岡胡桃さんは「最初は工具をうまく扱えませんでしたが、何回か練習するうちにスムーズにビス打ちができるようになり、ものづくりって楽しいなと感じました。建設業の方は厳しい方が多いのかなと思ってましたが、皆さんすごく優しく教えてくださって、建設業のイメージが変わりました。みんなでつくった大道具なので思い入れがありますし、大切に使わせてもらいます」と話した。

伊東氏は「地域に根差す建設業として、われわれの活動がお役に立ったなら嬉しいです。きょうの講習会を通じてものづくりの楽しさを感じてもらえたなら最高ですね」とコメントした。

（インスタ掲載）